

【奨励賞】

「共存」という選択肢」

北海道教育大学附属釧路中学校

2年 成田 善昭

「北方領土はどちらのものか」

今、日露間で話し合われていることだ。

僕はつい最近まで、この話し合いに違和感を覚えることはなかったし、日本のものであるのが当たり前だと思っていた。

しかし、社会の授業で「ジョバンニの島」を見て、この話し合いに違和感を覚えるようになり、僕の北方領土問題に対する考えも大きく変わった。

「ジョバンニの島」では、ロシア人の子供と日本人の子供が楽しそうに遊ぶシーンがある。このシーンを見て僕の中に「共存」という考えが生まれた。言語が違って、国が違って、友達になり、一緒に遊ぶことができるのだ。

さらに共存にはいくつかメリットがあると僕は考える。

まず、悲しむ人が減る。北方領土には一万六千人ものロシア人が住んでいる。もし、北方領土が日本に返還されることになったら、現地住民は自分たちの故郷から追い出されることになり、多くの人々が悲しむだろう。また、多くの人々が日本に反感を覚え、日本とロシアとの間の問題となるだろう。

だが、共存とすると、どうなるのだろうか。ロシア人も追い出されることもなくて済むし、日本の元島民の方達も自分の故郷に帰ることができる。

今、北方領土は日本人だけでなく、多くの人々の故郷となっている。そういったことも考えた上で、話し合いを進めるべきだと思う。

メリットはこれだけではない。共存は日本やロシアの国の発展に大きく貢献することになるだろう。

互いが互いの文化や価値観に触れることで二国間の文化交流が盛んになり、その交流した文化や価値観等を知ることで、交易が盛んになったり、トラブルが減ったりするだろう。

さらに、共存することによって、ロシア人と日本人の距離が縮まり、ロシア人も日本人も互いの国を身近に感じるようになり、それぞれの国の観光客も増えるだろう。

こういった点から、僕は「共存」という考え方には多くのメリットがあると考える。

だが共存するためには、互いが互いを理解しなければいけない。これまでの歴史などは考えずに、互いが互いの未来を考えて、互いがちょっとずつ我慢し、理解し合おうとすれば、きっと簡単に共存することができるだろう。

日露の二国間では、「共存」という選択肢も頭に置きながら、話し合いを進めるべきだと僕は思う。